

令和2年度 陽東中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

生徒一人一人の健康でたくましい身体、個性を生かした創造的な知性と技能、豊かな心情、強靱な意志、正しい社会連帯意識を養い自己実現を通して国家社会の進歩発展に貢献できる人間を育成する。

- (1) 自ら学び考える生徒（本気） (2) 豊かな心で思いやりのある生徒（勇気）
(3) 気力あふれるたくましい生徒（元気） (4) 進んで仕事をする生徒（根気）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

国内外の政治・経済・環境・情報など社会の急激な変化に伴い、学校や生徒を取り巻く環境の変化や価値観の多様化が進む中、学校教育は様々な課題を抱え、それらへの対応が求められている。このような中において学校は生徒に確かな学力を身に付けさせ、豊かな心を育むこと、ひいては主体的な判断力をもち、これからの社会をたくましく生き抜くことのできる力を身に付けさせることが最大の使命である。その使命を果たすためには、教職員の専門職としての資質を高めることが重要である。また、規範意識やコンプライアンス意識を高め、生徒、保護者、地域社会に信頼される教職員でなければならない。そして、学校、家庭、地域がそれぞれの教育力を発揮するとともに、一層連携を深め、開かれた学校づくりを推進する必要がある。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- 1 確かな学力の定着を目指して、教育活動のねらいを明確にし、分かる授業の実践と一人一人のよさを生かす活動の充実に努める。
2 生徒が自主的、主体的に活動する場の充実に努め、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、豊かな心の育成に努める。
○3 たくましく生きるための健康や安全に配慮し、自己の目標に向かって挑戦する活動の充実に努める。
4 教職員の共通理解及び情報共有の下、配慮を要する生徒に対して組織体制を確立した指導に努める。
5 温かく潤いのある教育環境づくりに努める。
○6 家庭や地域社会及び地域学校園との連携を深め、信頼される学校、地域とともにある学校づくりに努める。
7 教育公務員としての自覚と責任をもちコンプライアンスを遵守するとともに専門職としての資質向上に努める。また校務の見直しをしたり、組織的な対応をしたりすることにより、仕事の効率化を図るとともに、勤務時間を意識した働き方を推進する。

〔陽東地域学校園教育ビジョン〕

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- ・ 学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営の推進
- ・ 学校や地域の実態に即した教育計画の作成
- ・ 教育目標実現のための学年・学級目標の設定、具体策の明確化と実践
- ・ 組織体制を確立し連携協力した特別支援教育の推進

【学習指導】

- ・ 一人一人に学ぶ楽しさを体得させる学習指導の工夫（豊かな学び創造プロジェクト）
- ・ 市の方針を踏まえた授業時数の確保（実質的指導時間の確保）
- ・ 学習目標の明確化と振り返り、学習過程の工夫、達成状況の確認
- ・ 個に応じた学習の推進
- ・ 国・県・市の学力調査等の円滑な実施と結果の分析活用
- ・ 主体的に考え表現できる言語活動の充実
- 自主的な学習習慣の定着を培う指導
 - ・ ICT活用の共有化による授業の効率化と学力の向上
- キャリア教育の充実
 - ・ 「道徳」授業の円滑な実施と適切な評価

- ・ 道徳的実践力の醸成・向上

【児童生徒指導】

- ・ 豊かな心を育てる読書活動の推進
- ・ 認め合い支え合う集団づくりを通じた人権教育の推進
- 福祉・ボランティア活動の推進
- ・ 潤いのある教育環境づくりの推進
- 基本的生活習慣を身に付けさせる指導の充実
- ・ スマートフォンや携帯電話及びSNS等の正しい利用法の指導と問題の未然防止
- ・ 生徒のよさを見取り、自己肯定感を高める指導の充実
- ・ いじめ等の問題行動の未然防止と早期対応
- ・ 校内美化意識の高揚と清掃の意欲的な実践

【健康（保健安全・食育）体力】

- ・ 「部活動方針」に基づく部活動の推進・充実
- 体力の向上を目指す態度の育成
- ・ 発達段階に応じた薬物乱用防止、性に関する指導の充実
- ・ 感染症予防と健康管理能力の育成
- ・ 安全教育の充実・徹底
- 食に関する指導と望ましい食習慣の推進

【特色ある学校づくり】

- ・ 心をたがやす「花いっぱいプロジェクト」の実施
- ・ 学区内公園清掃活動（町も心もびかぴか活動）
- ・ 昇降口前・中庭清掃（NFV「ニュー フリーダム ボランティア」）
- ・ 地区体育祭等へのボランティア参加
- ・ ペットボトルキャップ・アルミ缶回収による車椅子寄贈
- ・ 生き方を考えさせるキャリア教育（ドリームデザイン教室等）

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童生徒の姿	A1 児童生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いた、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 →生徒肯定回答 80%以上 教職員肯定回答 80%以上	① 主体的に考え表現できる言語活動を充実させ、生徒が「意見を出し合い、共に考える」学び合いの場を設定し、積極的な学習態度を育てる。 ② 生徒の考えを引き出し、深める発問や板書を工夫し、生徒が自分の想いや考えを自由に言える授業の雰囲気づくりに努める。	B	【達成状況】 ・ 生徒の肯定回答は 87.3%（昨年度より 4.0 ポイント下回る）で目標を 7.3%、教職員の肯定回答は 98.2%（昨年度より 3.5 ポイント上回る）で目標を 18.2 ポイント、どちらも上回った。 【次年度の方針】 ・ 主体的に考え表現できる言語活動を充実させ、生徒が「意見を出し合い、共に考える」学び合いの場を設定し、積極的な学習態度を育てる。 ・ 生徒の考えを引き出し、深める発問や板書を工夫し、生徒が自分の想いや考えを自由に言える授業の雰囲気づくりに努める。

A 2 児童生徒は、思いやりの心をもっている。 A11 児童生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 →教職員肯定回答 90%以上	① 道徳科の授業を通して、「思いやりの心をもって人と接するとともに、人間愛の精神を深めること」について考えが深められるよう指導する。 ② 道徳科の授業を通して、「父母、祖父母を敬愛し、家族の一員として自覚をもって充実した生活を築くこと」について考えが深められるよう指導する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 86.0%（昨年度より 7.0 ポイント下回る↓）で、目標を 4.0 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・道徳の授業を通して、「思いやりの心をもって人と接するとともに、人間愛の精神を深めること」を指導していく。 ・道徳の授業を通して、「父母、祖父母を敬愛し、家族の一員として自覚をもって充実した生活を築くこと」を指導していく。
A 3 児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 →生徒肯定回答 85%以上	① 学年委員会などと協力し、5分前行動、3分前着席など、時間に余裕を持って行動できるよう働きかけていく。また、教師自らも率先して行動する。 ② 生活安全委員会などと協力し、更なる規範意識の育成やマナーの向上を図る。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 86.0%（昨年度より 3.5 ポイント下回る↓）で、目標を 1.0 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・学年委員会などと協力し、5分前行動、3分前着席など、時間に余裕を持って行動できるよう働きかけていく。また、教師自らも率先して行動する。 ・生活安全委員会などと協力し、更なる規範意識の育成やマナーの向上を図る。
A 4 児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」 →生徒肯定回答 90%以上	① 生徒会執行部、生活安全委員会等と協力し、あいさつ運動の充実を図り、その定着を目指す。 ② あいさつと返事がすべての集団活動の基本であることに気付かせ、学校生活のあらゆる場面での習慣化を目指す。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.1%（昨年度より 0.8 ポイント上回る↑）で、目標を 5.1 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・生徒会執行部、生活安全委員会などと協力し、あいさつ運動の充実を図り、その定着を目指す。 ・あいさつと返事がすべての集団活動の基本であることに気付かせ、学校生活のあらゆる場面での習慣化を目指す。 ・地域学校園のあいさつ推進の取組を小中で連携し、「小中合同あいさつ運動」の一層の充実や定着を目指す。

A 5 児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 A 7 児童生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケートの「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 →生徒肯定回答 80%以上 教職員肯定回答 80%以上	① 学年・学級目標、学校行事のスローガン等を教室に掲示し、それに向けての各自の目標を明確にするとともに、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。 ② 「ドリームデザイン教室」等の実施やキャリアパスポートを活用し、生き方を考えさせるキャリア教育を実践する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 83.8%で目標を 3.8 ポイント上回っているが、教職員の肯定回答は 78.9%で目標を 1.1 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・学年・学級目標、学校行事のスローガン等を教室に掲示し、それに向けての各自の目標を明確にするとともに、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。 ・目標を提示するだけでなく、定期的に降り帰りを実施し、達成できない点を確認する。 ・「ドリームデザイン教室」等を実施し、生き方を考えさせるキャリア教育を実践する。
A 6 児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 →生徒肯定回答 80%以上 教職員肯定回答 80%以上	① 感染症予防の新しい生活習慣を身に付け付け、自分に合ったバランスの良い食事をとり、体力づくりをすることによって、健康への意識を高める。 ② 交通安全に関する日々の指導や避難訓練を実施し、安全への意識を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 92.7%（昨年度より 1.1 ポイント下回り）で、目標を 12.7 ポイント上回り、教職員の肯定回答は 91.2%（昨年度より 1.7 ポイント上回り）で、目標を 11.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、家庭科や体育科、給食等により健康への意識の高揚に努める。 ・交通安全教室や避難訓練、登下校指導、日々の指導を行い、安全への意識高揚に努める。
A 8 児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童（生徒）は、外国語活動（英語）の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 →生徒肯定回答 80%以上	① 英語で伝え合うことの楽しさを実感するために、様々な英語表現を用いた言語活動の場を多く取り入れた英語の授業を実践する。 ② A L T の給食や学校行事への参加などを通して、生きた英語に触れる機会を充実させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 90.1%で目標を 10.1 ポイント、教職員の肯定回答は 89.8%で目標を 8.9 ポイント、どちらも上回った。 【次年度の方針】 ・英語で伝え合うことの楽しさを実感するために、様々な英語表現を用いた言語活動の場を多く取り入れた英語の授業を実践する。 ・A L T の給食や学校行事への参加などを通して、生きた英語に触れる機会を充実させる。

A 9 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童（生徒）は、宇都宮の良さを知っている。」 →教職員肯定回答 70%以上	① 郷土への関心を高めるため、各教科等の授業で宇都宮ブランドについて触れる。 ② 郷土の伝統と文化を大切にする態度を育てる内容項目の道德の授業で、導入や教師の説話等で宇都宮について触れる。	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 73.8%で目標を 3.2 ポイント上回っているが、教職員の肯定回答は 48.1%で目標を 21.9 ポイント、大きく下回った。 【次年度の方針】 ・各教科の授業で、宇都宮ブランド（郷土料理や大谷石、ジャズ、子育て支援等）について触れる。 ・郷土の伝統と文化を大切にする態度を育てる内容項目の道德の授業で、導入や教師の説話等で宇都宮について触れる。
A10 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童（生徒）は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。」 →教職員肯定回答 80%以上	① 情報機器の基本的操作方法を習得し、有効に活用する技能を身に付けさせることで、情報活用能力を育てる。 ② 目的に応じた各種辞書・辞典や問題解決のための一般図書資料を積極的に利用する態度を育てる。	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 71.4%で目標を 8.6 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・次年度導入の GIGA スクール構想に備えて準備を進める。 ・情報機器の基本的操作方法を習得し、有効に活用する技能を身に付けさせることで、情報活用能力を育てる。 ・目的に応じた各種辞書・辞典や問題解決のための一般図書資料を積極的に利用する態度を育てる。
A12 児童生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童（生徒）は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 →教職員肯定回答 70%以上	① 各教科等で、防災や環境問題、再生エネルギー等に関連のある単元や題材を通して、興味・関心をもたせるよう工夫する。 ② 新聞記事やニュースなどの情報から、環境問題や災害、事故等を取り上げ、身の回りに起こっている出来事に関心を持たせる。	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 72.4%であったが、教職員の肯定回答は 42.3%で目標を 27.7 ポイント、大きく下回った。 【次年度の方針】 ・社会や理科、英語等の授業で、化石燃料などの有限な資源の枯渇に備え、太陽光や風力などの再生エネルギーに目を向けさせる。 ・新聞記事やニュースなどの情報から、環境問題や災害、事故などを取り上げ、身の回りに起こっている出来事に関心を持たせる。 ・教室にポスターを掲示したり、パワーポイントや資料を使って視覚に訴える資料を準備したりして、周知を図る。

A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）や外国人児童（生徒）等の実態に応じて、適切な支援をしている。 A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）や外国人児童（生徒）等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 →教職員肯定回答 80%以上	① 特別な支援を必要とする生徒について、必要に応じて指導カルテを作成したり、ケース会議を実施したりして、それぞれの生徒に適切な支援ができるようにする。（かがやきルームやリカバリールーム、日本語指導等） ② ユニバーサルデザインの重要性を意識した授業を展開することで、教職員や生徒の合理的配慮等への意識の向上を図る。	B	【達成状況】 ・A13 の教職員の肯定回答は 98.2%で、A16 の教職員の肯定回答は 98.2%で目標を 18.2 ポイント、大きく上回った。 【次年度の方針】 ・特別な支援を必要とする生徒について、必要に応じて適切な対応ができており、今後も継続していくことで、生徒一人一人にとって居がいのある学校作りを目指す。 ・ユニバーサルデザインの重要性を教職員や生徒がより一層理解できるよう、共通理解を図る資料等を作成・配布する。
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 →生徒肯定回答 90%以上	① 全校集会、学年集会、また学級活動を通して、「いじめをしない・させない・見逃さない」という意識をもたせる指導をしていく。 ② いじめ根絶集会などの生徒の自治的な活動を支援し、いじめが許されない行為であることへの更なる意識の高揚に努める。 ③ 道徳の時間を通して、相手の立場や個性を否定する「いじめ」を絶対に許さないという道徳的態度育てる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.7%（昨年度より 2.1 ポイント下回る↓）で、目標を 4.7 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・全校集会、学年集会、また学級活動を通して、「いじめをしない・させない・見逃さない」という意識をもたせる指導をしていく。 ・いじめ根絶集会などの生徒の自治的な活動を支援し、いじめが許されない行為であることへの更なる意識の高揚に努める。 ・道徳の時間を通して、相手の立場や個性を否定する「いじめ」を絶対に許さないという態度育てる。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童（生徒）を大切に、児童（生徒）がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 →生徒肯定回答 90%以上 教職員肯定回答 90%以上	① 家庭との協力関係を一層強めるために、保護者との電話連絡や家庭訪問をこまめに行い、SC や MS との連携を密にするとともに、関係機関との連携も強めていく。 ② 学級担任がスタンダードダイアリーや教育相談等で生徒一人一人に寄り添いながらコミュニケーションの充実を図る。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.6%、教職員の肯定的回答は 96.5%で、市の平均よりも 0.4 ポイント、下回っている。 【次年度の方針】 ・家庭との協力関係をより一層強めるために、保護者との電話連絡や家庭訪問をこまめに行い、SC や MS との連携を密にすると共に、市教育センター等の関係機関との連携も強めていく。 ・スタンダードダイアリーの有効活用をより強く推し進める。

目指す学校の姿	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです。」「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 →生徒肯定回答 85%以上	① 特別活動等を通して、生徒が協力しながら意欲的・主体的に活動でき、達成感や自己肯定感を得られるような場を設定し、それに対する支援を行う。 ① 学級経営や教育相談などを充実させ、不登校傾向の生徒や配慮を要する生徒の支援に配慮しながら、生徒一人一人が「居がいい」のある学校づくりに努める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.1%で、昨年とほぼ同じであった。市の平均と比較すると 3.0 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・生徒が協力しながら意欲的・主体的に活動でき、達成感や自己肯定感を得られるような場を設定しつつ、特別な配慮を必要とする生徒にも学業指導の充実を図りながら、「居がいい」のある学校を目指す。
	A18 教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」 →生徒肯定回答 85%以上	① 生徒の学習意欲を喚起するとともに、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を適切に位置付け、「分かる・できる授業」づくりに努める。 ② 個に応じたきめ細かい指導を行い、習熟度別学習やT・Tなど指導方法を工夫し、基礎・基本の定着を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 89.4%（昨年度より 2.6 ポイント下回）で目標を 4.4 ポイント、下回った。 【次年度の方針】 ・生徒の学習意欲を喚起するとともに、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を適切に位置付け、「分かる・できる授業」づくりに努める。 ・個に応じたきめ細かい指導を行い、習熟度別学習やT・Tなど指導方法を工夫し、基礎・基本の定着を図る。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 →教職員肯定回答 80%以上	① SCやMSとの連携強化に努め様々な学校課題に対して、学校全体の共通理解の下、組織的に対応していく。 ② 市教委いきいきグループや子ども家庭課などの関係機関と情報を共有し、生徒一人一人の掌握に努める。また、地域協議会による教育支援ボランティアを活用することで業務の縮減を図る。 ③ 働き方改革を意識した教職員への啓発と業務改善を推進する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 84.2%で目標よりも 4.2 ポイント上回ったが、昨年度と比較して 10.5 ポイント、市の平均と比較して 7.2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・職員間の共通理解はもとより、外部関係機関及び地域ボランティアとの連携もさらに強めることで、業務の効率化を図っていく。 ・教職員全員が、同じベクトルで目指す学校像に向かって業務が進められるよう、学校マネジメントシステムを生かしたPDCAサイクルを回していけるようにする。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 →教職員肯定回答 70%以上	① ミライムを有効活用し、業務の効率化を図るとともに、会議や研修等の効率化を図る。 ② 「リフレッシュデー」の定期的な設定や部活動の効率的な活動の推進や休養日の設定を図ること で、教職員の負担軽減を目指す。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 56.1%で目標よりも 23.9 ポイント下回った。市の平均と比較しても、15.3 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・業務の効率化を図るとともに、業務に必要感をもって取り組めるよう、業務の第一義をしっかりと確認しながら業務に当たる。 ・リフレッシュデーの確実な実施や各自のタイムマネジメント向上など、意識改革に取り組んでいく。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 →教職員肯定回答 80%以上	① 分科会代表者会議及び運営委員会で組織及び計画、重点課題や具体策の確認などを話し合う。 ② 活用期における「重点化を図る指導内容」について、小中の情報交換を十分に行い、具体的な指導を積み重ねていく。 ③ 乗り入れ授業の充実を図り、小中協働の意識や小中一貫教育への参画意識を高める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 93.0%で目標よりも 13.0 ポイント上回った。市の平均と比較しても、6.2 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・義務教育 9 か年で目指す子供像を明確にし、基礎期、活用期、発展期それぞれの到達目標を確認しながら、「重点化を図る指導内容」について、小中の情報交換を十分に行い、具体的な指導を積み重ねていく。 ・小中協働の意識や小中一貫教育への参画意識を高めるために、分科会代表者会議及び運営委員会で、重点課題や具体策の確認などを話し合う。
A22 学校は、「地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。」 A23 学校は、「家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童生徒の育成に取り組んでいる。」 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 →保護者肯定回答 80%以上	① 地域協議会等による人材の発掘や地域人材・学生ボランティアの効果的な活動を通して、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。 ② 生徒が地域や地域学校園内の小学校で地区行事への参加、HUG 防災訓練への参加等の機会を増やし、地域と積極的に交流活動を行うことで、より一層の連携を図る。	B	【達成状況】 ・A22、A23 の保護者の肯定回答は 84.8%、で目標を 14.8 ポイント上回った。市の平均との比較は 0.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・地域人材・学生ボランティアの効果的な活用を通して、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。 ・生徒が地域や地域学校園内の小学校で地区体育祭・文化祭への参加、HUG 防災訓練への参加等の機会を設け、地域と積極的に交流活動を行うことで、より一層の連携を図る。

	A24 学校は、「利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 →教職員肯定回答 80%以上	① 安全点検を毎月確実に実施するとともに、すみやかに修繕に努め、安全な環境づくりに努める。 ② 教員が生徒とともに清掃活動と適切な除菌を行い、生徒がより衛生的かつ安全により良く活動できるように環境を整える。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 96.5% (昨年度より 0.1 ポイント上回る) で、目標を 16.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・安全点検の確実な実施と修繕に努める。 ・清掃美化コンクールの実施により、清掃活動状況の改善が図られてきたので、今後も継続していく。
	B 1 教職員は、「学校生活アンケート」や教育相談などを定期的に実施し、生徒の悩みに適切に対応している。 【数値指標】 全体アンケートの「教員は、イヤな思い調査や教育相談などを通して、生徒の悩みに適切に対応してくれる。」 →生徒肯定回答 90%以上	① 日常生活全般において校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談や「学校生活アンケート」(悩み調査)を活用し、いじめへの即時対応や早期発見・未然防止に努める。 ② 「いじめゼロ強調月間」と関連して学級活動での話し合い活動の推進を実施する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.7% (昨年度より 2.2 ポイント下回る↓) で、目標を 2.7 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・日常生活全般において校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談や「学校生活アンケート」(いじめ調査)を活用し、いじめへの即時対応や早期発見・未然防止に努める。 ・「いじめゼロ強調月間」と関連して学級活動での話し合い活動の推進を実施する。
本校の特色・課題等	B 2 生徒は、身の回りを清潔にし、給食後の歯みがきを必ずしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、身の回りを清潔にし、給食後の歯みがきを必ずしている」 →生徒肯定回答 90%以上	① 広報活動や生徒会保健委員会での取組を積極的に行う。 ② 陽東地域学校園「給食後の歯磨き(ぶくぶくうがい)」の取組を習慣化させるとともに、家庭での丁寧な歯磨きの習慣化を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 66.4% (昨年度より 30.5 ポイント下回る) で、目標を 23.6 ポイント下回った。コロナ禍で、実施方法の変更をせざる負えなくなり、定着していた習慣が崩れつつある。 【次年度の方針】 ・担任教諭による日常指導や広報活動、生徒会保健委員会を中心とした取組を行い、衛生習慣を回復させる。
	B 3 生徒は、朝の読書の時間において進んで読書を行い、読書の幅を広げている。 【数値指標】 全体アンケートの「朝の読書の時間において進んで読書をするなど読書の幅を広げることができた。」 →生徒肯定回答 95%以上 →教職員肯定回答 95%以上	① 学級担任は生徒と共に読書を行い、生徒が良い本と出合う機会としての読書活動を充実させる。 ② 地域ボランティアの協力による本の読み聞かせを全学級で行い、読書への関心を高める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 93.8% (昨年度より 2.3 ポイント下回る) 目標を 1.2 ポイント下回り、教職員の肯定回答は 96.4% (昨年度より 1.4 ポイント下回る) 目標を 1.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学級担任は生徒と共に読書を行い、生徒が良い本と出合う機会としての読書活動を充実させる。 ・地域ボランティアの協力による本の読み聞かせを全学級で行い、読書への関心を高める。

B 4 教職員は、定期的に登校指導や下校指導を行い、交通事故防止に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、定期的に交通指導や登校指導を行い、交通事故防止に努めている。」 →生徒肯定回答 95%以上 →教職員肯定回答 95%以上	① 年度初めの計画通りに、通学路において立哨指導をする。地域学校園とも連携を図る。 ② 学校行事の後に集会を開き、全校生徒に注意喚起をする。また学年集会や学級においても「自分の命は自分で守る。」指導を行う。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.3%（昨年度より 0.9 ポイント下回る↓）で、目標を 1.3 ポイント上回っている。 ・教職員の肯定的回答は 98.2%（昨年度より 1.8 ポイント下回る↓）で、目標を 3.2 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・年度初めの計画通りに、通学路において立哨指導をする。 ・学校行事の後に集会を開き、全校生徒に注意喚起をする。また学年集会や学級においても「自分の命は自分で守る。」指導を行う。
---	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける

【学校運営】

- ・一人一授業や要請訪問、各種研修を実施することで、新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善について考えたり実践したりすることができた。
- ・小学校への乗り入れ授業が実施できたことで、小中連携を意識することができた。
- ・組織体制を確立（教育相談部会等）し、特に外部機関（児相、警察、こども家庭科課等）との連携を図った支援の充実が図れた。

【学習指導】

- ・今後も主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を目指し、全教職員の授業を公開し、授業力の向上に努める。
- 落ち着いた態度で学習に取り組めるよう、地域学校園の「学習の約束」や各教科における授業のルールなど、学習規律を今後も指導していく。

【児童生徒指導】

- ・生徒会主催による「いじめ根絶集会」の開催や学級での道徳や学活での様々な取組を通して、生徒たちの「いじめは絶対に許されない行為」であるという意識の高揚を図ることができた。
- 生徒の規範意識やマナーは身に付いていると考えられるが、継続的な指導を今後も続けていく。

【健康（保健安全・食育）体力】

- ・新体力テストの分析をもとに、弱点の克服に向けた補強運動を考案・実践し、コロナ禍においても体力の向上が図れた。
- ・美化委員会活動において、清掃協調週間や美化コンクールを実施することで、環境を整えることができた。生徒自ら清掃に取り組めるような指導を今後も継続していく。
- ・北棟のトイレが全て洋式となり、新しい清掃方法を提示・実践させた。
- ・「花いっぱいプロジェクト」の実施により、日日草やパンジーの栽培等、学校内の環境づくりに努めることができた。
- ・安全点検を行い、学校設備が原因になるケガや事故がないよう努め、成果が出てきている。

【特色ある学校づくり】

- ・「花いっぱいプロジェクト」では、年間を通してプランターの花を維持することはできたが、中庭の芝桜はうまく咲かせることができなかった。来年に向けて、準備を進めているが、うまくいくかどうか不安である。
- ・「町も心もびかぴか活動」は来年度も学年ごとに実施していく。生徒がやりがいをもって取り組めるよう工夫していく。
- ・ボランティア委員会やニューフリーダムボランティア（NFV）等の活動を通して、ボランティアへの啓発を継続する。
- ・「ドリームデザイン教室」を継続し、キャリア教育の充実を図っていく。

6 学校関係者評価

- ・今年度は、様々な取組が中止又は規模縮小を余儀なくされたが、読み聞かせやミシン指導など工夫しながら実施することができた。次年度も継続していく。
- ・あいさつについては、成果も出てきているので、今後も取り組んでいく。今年度は、学校園であいさつ運動を行えなかったが、のぼりを準備するなどしている学校もあるので、次年度は機会を設けて実施し、地域全体であいさつ運動の推進を図る。
- ・「町も心もびかびか運動」は生徒が地域を見直したり、地域の方々から声をかけられることで自己肯定感が高まったりするなど、効果が大きいものと感じている。今後、各自治会に「ボランティア要請カード」を配布するので、活用を図っていく。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける

全体的に評価が下がった原因として、コロナ禍の影響で、地域活動や小中一貫教育に関する取り組みが十分に行えなかったことや、新しい生活様式の中で先生方の負担も大きく、また、話し合い活動など思うような授業に取り組めなかったことが影響していると考えられる。そのような中で、今年度の状況を踏まえ、以下のように次年度は取り組んでいく。

○小中連携の取組として、地域学校園でのあいさつを継続し、より一層の充実に努める。また、改めて義務教育9年間で育成する目指す子供像を見直し、有効性のあるものとしていく。さらに、これまでどおり、発達の段階に「学習の三つの約束」を中心とした基本的な学習態度の定着に努める。

- ・ニューフリースダムボランティア（NFV）や各自治会で配布される「ボランティア要請カード」等を活用して、地域貢献ボランティア活動への生徒の主体的な参加を促し、達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりに取り組む。
- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた教職員の授業力の向上に向け、「主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善」のテーマの下、知識・技能が効果的に活用、発揮される授業実践や言語活動の工夫改善、思考力や表現力の育成等に向け、校内研修を充実させるとともに、評価の在り方についても各教科部会で検討を重ね、指導と評価の一体化を図れるようにする。
- ・学力向上に向け、学びに向かう集団づくり（学業指導）を教職員の共通の目標として、研修等実施し同一步調で実践できるようにする。
- ・「読み聞かせ」や「家庭科ミシンボランティア」でのボランティアなど、多くの活動に地域の教育力を生かす取組が定着してきた。引き続き、地域人材を活用した学習支援活動を充実させ、地域とともにある学校づくりの推進を目指していく。
- ・不登校傾向や不適応傾向の生徒、特別な配慮を要する生徒に対して校内研修により周知徹底を図る。また、生徒の特性を理解し適切な支援を行う（カウンセリング機能）とともに、関係機関との連携強化を図っていく。
- ・全教職員の共通理解、情報共有及び行動連携の下、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見に努める。特に、いじめ根絶集会における生徒の自主的な活動を支援し、「いじめは絶対に許されない行為」であることを生徒たちの心に訴え続けるなど、繰り返し指導していく。
- ・働き方改革に向けて、教職員の意識改革及びリフレッシュデーの確実な実施などの業務改善に積極的に取り組んでいく。